

# 聖地・神宮で打線爆発、3部昇格決める

# TEIKYO HEISEI Sports Journal

Vol.1  
創刊号

SPORTS UNITED TEIKYO HEISEI UNIVERSITY

## 東都大学野球連盟 春季リーグ3・4部入れ替え戦 成蹊大に連勝

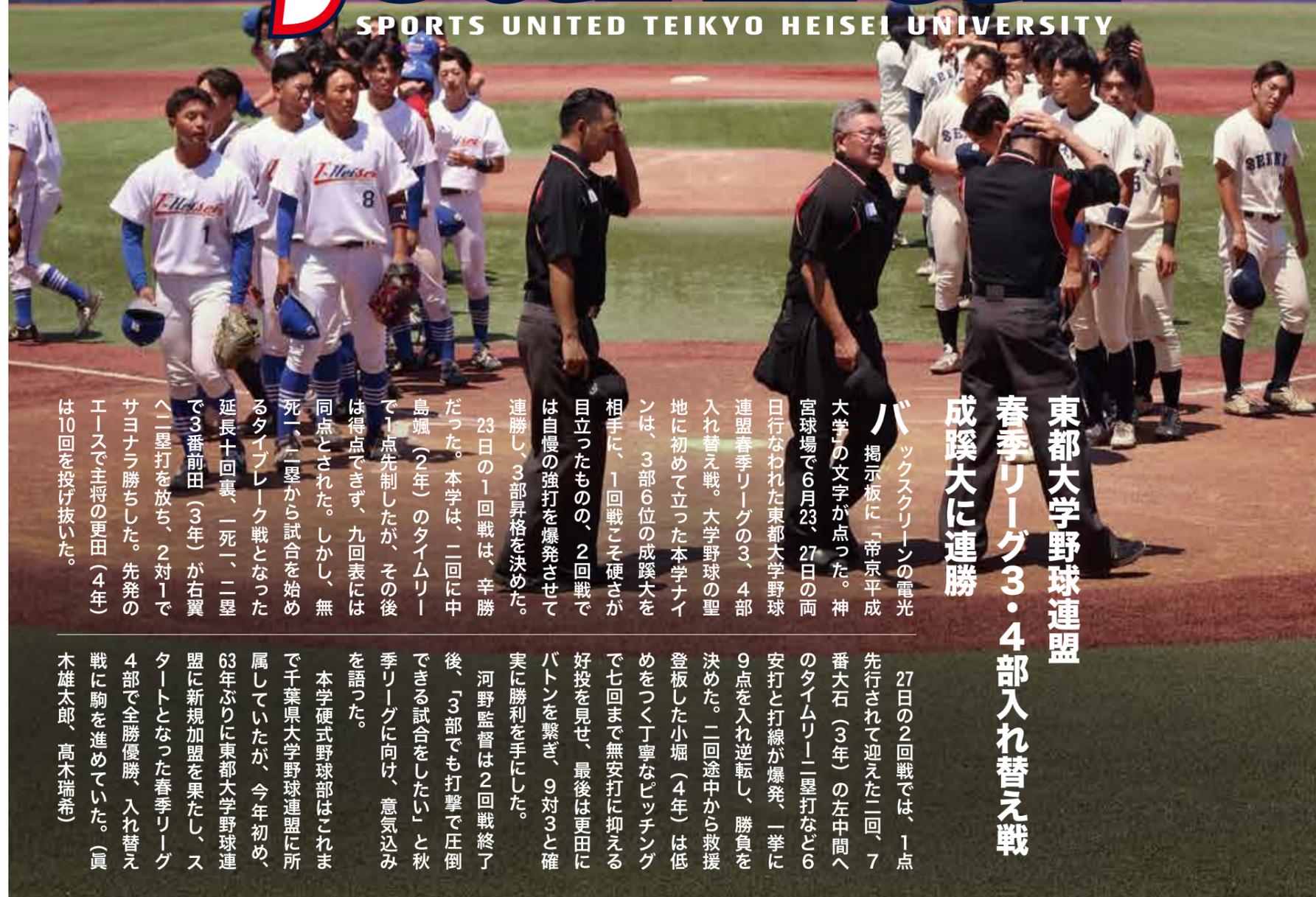
バックスクリーンの電光掲示板に「帝京平成大学の文字が点った。神宮球場で6月23、27日の両日行なわれた東都大学野球連盟春季リーグの3、4部入れ替え戦。大学野球の聖地に初めて立った本学ナインは、3部6位の成蹊大を相手に、1回戦こそ硬さが目立ったものの、2回戦では自慢の強打を爆発させて連勝し、3部昇格を決めた。

23日の1回戦は、辛勝だった。本学は、二回に中島颯(2年)のタイムリーで1点先制したが、その後は得点できず、九回表には死一、二塁から試合を始めるタイムブレイク戦となった。延長十回裏、一死一、二塁で3番前田(3年)が右翼へ二塁打を打ち、2対1でサヨナラ勝ちした。先発のエースで主将の更田(4年)は10回を投げ抜いた。

27日の2回戦では、1点先行されて迎えた二回、7番大石(3年)の左中間へのタイムリー二塁打など6安打と打線が爆発、一挙に9点を入れ逆転し、勝負を決めた。二回途中から救援登板した小堀(4年)は低めをつく丁寧なピッチングで七回まで無安打に抑える好投を見せ、最後は更田にバトンを繋ぎ、9対3と確実に勝利を手にした。

河野監督は2回戦終了後、「3部でも打撃で圧倒できる試合をしたい」と秋季リーグに向け、意気込みを語った。

本学硬式野球部はこれまで千葉県大学野球連盟に所属していたが、今年初め、63年ぶりに東都大学野球連盟に新規加盟を果たし、スタートとなった春季リーグ4部で全勝優勝、入れ替え戦に駒を進めていた。(眞木雄太郎、高木瑞希)



**帝京平成大学野球部**  
 1990年創部。千葉県大学野球連盟に所属し、2021年秋に同連盟2部リーグで初優勝。東都大学野球連盟の審査を経て、今年1月、東都大学野球連盟に加盟した。新規加盟は63年ぶり、22校目。  
 部員数は153人。千葉県市原市のちはら台キャンパスに練習拠点を置く。部のモットーは「論理的思考力に基づくチームビルディング」。部員が主体的に考え行動することで、個人とチーム全体が成長することが狙いだ。  
 地域貢献にも積極的で、近隣の子供たちを対象に野球教室を開くなど、地域との関わりを深めることに取り組んでいる。

今季のチーム成績

4部対戦成績

第1ラウンド	都市大	東工大	芝工大	第2ラウンド	都市大	東工大	芝工大
1回戦(後攻)	0-15	0-32	0-8	1回戦(後攻)	0-12	3-8	1-10
2回戦(先攻)	20-3	24-0	11-2	2回戦(先攻)	9-1	15-1	25-3

チーム成績

帝京平成大	打率	得点	本塁打	打点	盗塁	犠打飛	失策	防御率	投球回	自責点
	.356	188	9	151	41	13	4	0.92	108	11

4部リーグ 表彰選手

最高殊勲選手	岩堀 裕風 (帝京平成大)
最優秀投手	更田 篤穂 (帝京平成大)
最優秀防御率	更田 篤穂 (帝京平成大)
首位打者	岩堀 裕風 (帝京平成大)
新人賞	宮本 翔梧 (芝浦工大)



7月3日の表彰式で大島正克連盟理事長から表彰を受ける岩堀ら本学選手

2022年春季リーグ4部打撃トップ10

順位	選手名	大学名	打数	安打	本塁	打点	盗塁	打率
1	岩堀	帝京平成大	26	15	1	14	1	.577
2	満田	帝京平成大	53	24	1	14	10	.453
3	山本(大)	帝京平成大	49	21	0	19	0	.429
4	栃木	帝京平成大	33	14	1	10	1	.424
5	中島(颯)	帝京平成大	41	16	0	13	5	.390
6	小松	都市大	51	17	0	5	3	.333
7	鶴岡	芝工大	41	13	0	2	0	.317
8	荒木	帝京平成大	56	17	5	25	0	.304
9	大石	帝京平成大	48	14	1	13	5	.292
10	牧野	都市大	49	14	0	4	6	.286

順位	試合数	勝ち数	負け数	勝ち点	勝率
<b>1部</b>					
1	亜細亜大	13	10	3	.769
2	國學院大	12	6	6	.500
3	駒澤大	13	6	7	.462
4	青学大	12	5	7	.417
4	日本大	12	5	7	.417
4	中央大	12	5	7	.417
<b>2部</b>					
1	東洋大	12	10	2	.833
2	専修大	12	9	3	.750
3	拓殖大	11	5	6	.455
4	立正大	12	5	7	.417
4	東京農大	10	4	6	.400
4	国士館大	11	1	10	.091
<b>3部</b>					
1	学習院大	13	10	3	.769
2	順天堂大	12	9	3	.750
3	大正大	13	8	5	.615
4	一橋大	12	4	8	.333
4	上智大	13	4	9	.308
4	成蹊大	13	3	10	.231
<b>4部</b>					
1	帝京平成大	12	12	0	1.000
2	芝浦工大	14	7	7	.500
3	都市大	14	6	8	.429
4	東工大	14	2	12	.143

ベストナイン

投手	更田 篤穂 (帝京平成大)
捕手	岩堀 裕風 (帝京平成大)
一塁手	山本 大介 (帝京平成大)
二塁手	満田 颯汰 (帝京平成大)
三塁手	中島 颯人 (帝京平成大)
遊撃手	大石 高志 (帝京平成大)
外野手	栃木 翼 (帝京平成大)
	小松 勢 (都市大)
	曾場 大雅 (帝京平成大)
	横尾 真輝 (芝工大)
指名打者	荒木 健太 (帝京平成大)

**前田幸輝選手 (内野手)**  
 2戦先勝で3部昇格が決まる入れ替え戦の初戦、延長10回、サヨナラ二塁打を放って、勝利を呼び込み、3部昇格へ弾みをつけた。



東都大学野球連盟とは：1931年に発足。本学が加わったことで加盟校は全22校となり、プレミアムユニバーシティズ22(プレユニ22)の新愛称とともに新たなスタートを切った。4部制で、春季リーグ戦は、1部＝青山学院大、亜細亜大、國學院大、駒澤大、中央大、日大、2部＝国士館大、専修大、東洋大、拓殖大、東京農大、立正大、3部＝学習院大、順天堂大、上智大、成蹊大、大正大、一橋大、4部＝芝浦工大、東工大、都市大、帝京平成大が熱戦を繰り広げた。

創刊号に寄せて

大学スポーツの魅力

帝京平成大学 学長

沖永寛子



大学スポーツはなぜ魅力があるのだろうか。自分の大学を応援する楽しみだけでなく、アマチュアスポーツであるが競技性が高いこと、大学4年間で競技面だけではなく人間性や社会性などの成長が見られること、学生によってプロになるか就職するか的人生ドラマがあることなどが挙げられる。

これらの魅力を本学でも最大限に支援したいと考え、2018年に帝京平成大学スポーツブランドの強化とイメージの統一の方針を示してから、帝京平成大学のスポーツは走り続けてきた。スポーツ局の開設による各部の安全安心対策・ガバナンスの強化、女子サッカー部の全国優勝、野球部の63年ぶり東都大学リーグ加盟と初参戦での三部昇格、柔道部、バスケット部の活躍など切磋琢磨しながら実績を積み重ねてきた。

それらの活躍を目の当たりにし、ぜひ多くの方々に知ってほしい、できれば学生自らが発信してほしいという皆の願いを実現したのが、このメディア部創設と創刊号発刊に繋がったのである。2018年の方針決定から5年目を迎える。HEISEI Sports Journalの一步がここから始まることを記念する素晴らしい創刊号となったことに心から感謝する。帝京平成大学のスポーツ+メディア部が大学スポーツの魅力を発信していくことを期待している。

実る、  
 学びを。



池袋・中野・千葉・ちはら台、  
 4つのキャンパスで開催。



オープンキャンパス  
 参加申込



WEB オープンキャンパス



小野監督(右)と技について話し合う老野選手=眞木雄太郎撮影

## 強化部 レポート



### 考える力こそ強さの源泉

老野祐平主将 (健康医療スポーツ学部3年)

昨年の全日本ジュニア柔道体重別選手権81キロ級で頂点を極めると、今年1月、日本代表として出場したポルトガルの国際大会で3位。5月には全日本強化選手選考会の同クラスで激戦を制して優勝し、シニアでも日本の頂点に立った。

「今は天才が勝つ時代ではなく、秀才が勝つ時代」。中学時代の恩師にかけられた言葉だ。これ以降、柔道に対する取り組みが変わった。

「自分で考える力を養わなければ勝てるようにならない」と考えている。小野監督と何度も話し合い、技の確認を行ってきた。自分の考えがなければ、教わったことは吸収できない。自分なりの仮説をたてた上で質問し、自分に足りない部分

部分を吸収してきた。

「自分は天才でも秀才でもない。理想にはまだほど遠い」と言う。だが、考え抜く習慣がこれまでの成果にむすびついていることは間違いない。

10月には、全日本学生体重別団体優勝大会、個人の全日本学生柔道体重別選手権、講道館杯が控えている。稽古に益々熱が入る。(眞木雄太郎)



#### 女子サッカー部

創部は2013。これまで、20年の第29回全日本大学女子サッカー選手権大会(インカレ)で優勝したほか、全日本女子サッカー選手権大会(皇后杯)に2回出場、さらには関東大学女子サッカーリーグ1部リーグでの優勝3回と、華々しい成績を収めている。

部員数は選手43人、学生トレーナー2人の計45人。千葉キャンパスのういどグラウンドを活動拠点としている。チームのテーマは、物事の道理や本質を追い求めて知識を深め、日々向上していくことを意味する「格致日新」。目標は、関東大学女子サッカーリーグ、全日本大学女子サッカー選手権の優勝だ。

主将の福永季和さん(健康医療スポーツ学部4年)は、「チームでは昨年、『繋がついている』という言葉大切にしている」としたうえで、「先輩方が残してくれた言葉で、コロナで十分な練習ができなかったり有観客試合ができなかったりと、今まで当然と思っていたことができなくなりました。そんな中でもチーム一丸となって前に進もう、ということから口にするようになりました」と説明。もう一人の主将の安舞美さん(同学部4年)も「サッカーではいい意味で上下関係なく、1年生から4年生までお互い高

めあっています。常に感謝の気持ち忘れずサッカーの結果で恩返しするようにしています」と話す。

6月18日に行われた第36回関東大学女子リーグ戦では東洋大学に2対1で勝利しており、好調な滑り出しを見せている。(中嶋めぐ、本田陸)



#### 男子柔道部

小野卓志監督率いる男子柔道部は2020年に創部。本学千葉キャンパス9号柔道場を練習拠点に置き、不撓不屈の精神をモットーに、日々練習に取り組んでいる。

創部翌年の21年には、関東学生柔道優勝大会男子2部で優勝し、2021全日本学生柔道優勝大会に初出場。2022年には、老野祐平主将(健康医療スポーツ学部3年)が全日本強化選手選考会81キロ級で優勝するなど、個人、団体ともに創部3年目としてはめざましい結果を残している。

現在、部員数は1年生から3年生の36人。小野監督は「少ない人数だからこそ技術練習に多くの時間を割くことができ、選手たちは武器を増やすことに注力できている」としたうえで、「部としての歴史が短く、胸を張って、これが部の強みであると語るのには難しいが、きめ細かい練習ができることはうちの特色」と語った。6月25、26日に行われた全日本柔道優勝大会では1回戦で弘前

大に6-0と完勝(=写真)。2回戦では名門・明治大に敗れはしたものの、初戦で敗れた前回大会からの進歩を感じさせる大会となった。創部4年目の来年度には、1年生から4年生まで全学年が揃う。最大の目標とする全日本柔道優勝大会上位進出に向け、どのような成長を見せるか注目だ。(立花晴夏)



#### 女子柔道部

2011年創部の女子柔道部は、千葉キャンパス4号体育館を活動拠点とし、部員は14人。田中崇晃(たかあき)監督のもと、「凡事徹底」をモットーに、自発的な稽古に日々取り組んでいる。目標は、関東学生優勝大会5人制優勝、全日本学生柔道優勝大会5人制入賞だ。

主将の山岸莉那花さん(健康医療スポーツ学部4年)は、「目標に向かって、目の前の試合に集中し、一つ一つ勝利を重ねたい。部員一人一人の個性が強く、稽古では上下関係なく柔道に打ち込むことで出来ている」と語る。

4月から現田中監督体制になり、男子、女子別々に稽古していたこれまでのやり方を見直し、合同で稽古するなど新たな取り組みを進めている。

6月24日に行われた全日本学生柔道優勝大会では、昨年の同大会3人制で準優勝の別府大学に3-2と勝利(=写真)。

2回戦で帝京大学に敗れはしたが、初戦で敗れた昨年度から、一歩前に進む大会となった。(眞木雄太郎、比嘉理貴)



#### 男子バスケットボール部

創部は1988年。2017年に準強化部となった。部員数54人。池袋キャンパスを拠点に、2チームに分かれて週5回活動している。

21年には関東大学バスケットボールリーグ戦3部で3位の成績を残している。

バスケットボールを通じて育まれる「人間性」や「勉学との両立」を大切に、3部リーグ優勝、2部リーグ昇格を目標としている。

大井史哉主将(人文社会学部4年)は、「昨年は惜しくも達成する事が出来なかった2部リーグ昇格を達成できるようにチーム一丸となって頑張ります。応援よろしくお願いします」と語る。

6月8日に東京・大田区総合体育館で行われた第62回関東大学バスケットボール新人戦では、2部所属で格上の法政大学と対戦(=写真)、96-67で敗退したものの、第3ピリオドからの追い上げは、今後に期待させるものだった。(鹿子嶋天良、立花晴夏)

# 新入部員募集中!

## 私たちと本学のスポーツ 盛り上げませんか?

経験不問  
帝京平成大学の  
1・2年生

スポーツ・情報発信  
新聞制作・写真に  
興味がある方大歓迎!

入部希望者は代表者まで  
代表者：眞木雄太郎 (マキユウタロウ)  
320D15058@edu.thu.ac.jp  
立花晴夏 (タチバナハルカ)  
320D16029@edu.thu.ac.jp  
本田陸 (ホンダリク)  
320D61103@edu.thu.ac.jp

Teikyo Heisei University  
メディア部

活動日：毎週水・木(隔週月曜日)5限以降

活動内容：年に2、3回の新聞発行とネットを通じた情報発信

発行日：2022年(令和4年)7月15日

守備位置	選手	打数	安打	打点	2回戦	
[左]二	中島(颯)	6	2	1	成蹊大	帝平大
[指]	荒木	3	0	0	1	0
[三]	前田	4	1	1	2	9
走	宇都宮	0	0	0	0	0
三	佐藤(颯)	0	0	0	0	0
[一]	山本(大)	3	0	0	0	0
[捕]	岩堀	4	0	1	0	0
[中]	佐伯	3	1	1	0	0
[遊]	大石	4	1	1	0	0
[右]	守屋	2	1	2	0	0
右	宇佐美	1	1	0	0	0
走	金本	0	0	0	0	0
右	元屋敷	1	1	0	0	0
[二]	満田	3	1	1	0	0
左	曾場	0	0	0	3	9
計		34	9	8		

三4球9 犠飛2 盗3 失1 残10  
二塁打 大石・佐伯・守屋

先発	回数	被安打	自責
林(侑)	1 1/3	4	3
小堀 勝	5 2/3	0	0
更田	2	1	0

守備位置	選手	打数	安打	打点	1回戦	
[左]	中島(颯)	5	1	1	成蹊大	帝平大
[指]	荒木	3	1	0	0	0
走	金本	1	0	0	0	0
[三]	前田	5	1	1	0	0
[一]	山本(大)	4	2	0	0	0
[捕]	岩堀	2	1	0	0	0
[中]	佐伯	4	0	0	0	0
[二]	満田	3	0	0	0	0
[右]	守屋	3	1	0	0	0
右	宇佐美	0	0	0	0	0
[遊]	大石	2	0	0	0	0
計		32	7	2	0	0

三8球7 犠飛0 盗2 失3 残11  
二塁打 守屋・前田

先発	回数	被安打	自責
更田 勝	10	5	0



### 2022 春季リーグ入れ替え戦結果

1-2部	中央大(1部6位) 2勝 残留	×	東洋大(2部1位) 1勝 残留
2-3部	国士舘大(2部6位) 2勝 残留	×	学習院大(3部1位) 0勝 残留
3-4部	成蹊大(3部6位) 0勝 降格	×	帝京平成大(4部1位) 2勝 昇格



1回戦の10回裏1死1、2塁、前田のタイムリーでサヨナラ勝ちを決め、ベンチから飛び出して喜ぶ本学ナイン=立花晴夏撮影



2回戦2回表1死3塁、満田が左前へ勝ち越しの二塁打を放つ



2回表、満田の二塁打に沸く本学ベンチ

### 編集後記

今日、本学スポーツの活躍を伝える情報メディアが産声を上げました。TEIKYO HEISEI Sports Journal 創刊号をお読み頂き、心より感謝します。スポーツ局メディア部がスタートしたのは5月初め。学生編集部員全員が未経験者で戸惑うことばかりでしたが、大学側の全面的なバックアップの下、試行錯誤しながらなんとかこの日を迎えることができました。今後は、節目ごとに新聞を発行するほか、公式ウェブサイトも開設し、本学選手の躍動ぶりを随時伝えていきます。ご期待ください。

- 「懸命な学生選手にスポットを！」(め)  
「大学スポーツの魅力を発信！」(高)  
「情報を深掘りして届けます！」(西)  
「帝平スポーツに光を！」(鹿)  
「本学運動部の発展の一助に！」(眞)  
「みんなの頑張りによる大きな拍手を！」(比)  
「母校を盛り上げたい！」(雲)  
「歴史を刻んでいこう！」(陸)  
「瞬間の喜びを書き連ねる！」(立)  
「ワクワクさせる！」(大)  
「臨場感を紙の向こう側へ！」(柳)

本号は、眞木雄太郎、立花晴夏、本田陸、中嶋めぐ、鹿子嶋天良、高木瑞希、大田里都、柳瀬明日香、比嘉理貴、南雲越喜、西田愛彩が担当しました。

# 2部昇格を目指して 秋季リーグへ

## 入れ替え戦 詳細

大学野球の聖地・神宮球場で初めてのゲームとなった本学ナイン。1回戦こそ延長戦にもつれ込む展開だったが、2回戦では持ち前の打線が爆発、東都大学野球リーグ初参戦で3部昇格を果たした。9月上旬開幕予定の秋季リーグでは、学習院大、順天堂大、大正大、一橋大、上智大の5校を相手に2戦先勝方式で対戦する。秋季も優勝して2、3部入れ替え戦進出を目指す。

「3部昇格が第一の目標だったので、ほっとしている。三か月と長い戦いだったので、少し休んでから一からチームを作り直したい。早い回で点が入り、うちのペーシングに持っていくことが出来たが、追加点が入らなかつたことが課題。これまで、バントを使わない攻撃野球を行なってきたが、一点を取る野球も必要だと、入替戦を通じて感じた。だが、目指すのは、打撃で勝利を呼び込むチーム。3部でも圧倒した試合運びをした」と(編集部)

### 河野監督談話

「3部昇格が第一の目標だったので、ほっとしている。三か月と長い戦いだったので、少し休んでから一からチームを作り直したい。早い回で点が入り、うちのペーシングに持っていくことが出来たが、追加点が入らなかつたことが課題。これまで、バントを使わない攻撃野球を行なってきたが、一点を取る野球も必要だと、入替戦を通じて感じた。だが、目指すのは、打撃で勝利を呼び込むチーム。3部でも圧倒した試合運びをした」と(編集部)



1回戦を一人で投げ抜いた更田投手=鹿子嶋天良撮影

粘り強い野球、打ち勝つ野球で2部昇格へ

入れ替え戦終了後、主将でエースの更田選手に聞いた。  
●入替戦を振り返って、良かった点、反省点は  
「良かった点は、接戦になった1回戦を粘り勝ちできたこと。リーグ戦ではロースコアのゲームがなかったので入替戦というそれも神宮という大きな舞台で、勝ち切ることができて良かった。」  
「反省点は、守備の乱れやあと1点欲しいところで取りきれなかったところ。1球に対しての集中力を高めていくことが重要だと改めて感じることができた。」  
●神宮で初めてのプレーだったが「初回は緊張したが、2回以降は普段通り投げることができた。」



「1回裏、帝京平成大学の攻撃は一番レフトの中島颯人君」。さわやかな声が球場に響いた。  
3、4部入れ替え戦の1回戦。憧れの神宮球場でマイクの前に座るのはこれが初めてだった。  
「入部当初からの目標だっただけに、緊張しました」と大役を無事終えて安堵の表情を浮かべた。

「1回裏、帝京平成大学の攻撃は一番レフトの中島颯人君」。さわやかな声が球場に響いた。  
3、4部入れ替え戦の1回戦。憧れの神宮球場でマイクの前に座るのはこれが初めてだった。  
「入部当初からの目標だっただけに、緊張しました」と大役を無事終えて安堵の表情を浮かべた。

### チアダンス部にとっても、神宮球場は初めての経験だった。



チアダンス部にとっても、神宮球場は初めての経験だった。  
18年11月の創部で、現在部員は一年生と四年生の計7人。コロナ問題の打撃を受けて、二、三年生が在籍していない状態だが、そんなことを感じさせない明るい笑顔でスタンドを彩った。  
「これまで、大学内での発表、帝京平成大学の学園祭である四季祭や地域のイベントを中心に活動してきた。入れ替え戦に向けて部員たちは、野球部に合う応援は何かを考え、野球部のマネージャーにアドバイスをもらったり、工夫を重ね振付けを作り上げてきた。」(眞木雄太郎)

### 神宮の風

「1回裏、帝京平成大学の攻撃は一番レフトの中島颯人君」。さわやかな声が球場に響いた。  
3、4部入れ替え戦の1回戦。憧れの神宮球場でマイクの前に座るのはこれが初めてだった。  
「入部当初からの目標だっただけに、緊張しました」と大役を無事終えて安堵の表情を浮かべた。

チアダンス部 部員募集中 連絡先 Instagram @thu-blue-topaz